

令和7年度事業報告書（指定管理事業）

1 文化事業

「新潟市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めると共に、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与する。」という博物館の設置目的を達成するため、以下の各種事業を行った。

※表中の人数は観覧者数または参加者数

（1）展示運営更新

人と水の関りをテーマに新潟市の歴史を紹介。学芸員やボランティアによる展示解説を行った。また、川村修就コーナーの展示ケースを、4月・7月・9月・1月・2月の5回、展示替えした。

（2）企画展示事業

興味深いテーマを設定し、地域の歴史・文化を楽しく分かりやすく市民に伝える展示を行った。今年度は指定管理事業として以下の4本の企画展を開催した。

「にいがた てしごと・ものづくり」展	4/12(土)～6/8(日)	3,240 人
「戦場の町と村ー新潟市と戊辰戦争」展	7/12(土)～8/31(日)	5,813 人
第22回むかしのくらし展「くらしのなかのあたりまえ いまむかし」	10/11(土)～11/24(日)	5,975 人
「収蔵品展・新収蔵品展」	2/14(土)～3/22(日)	3,601 人

※むかしのくらし展は当初 9/13(土)～11/24(日)の予定だったが、9/10(水)に発生した落雷の影響により安全設備に不具合が生じたことから、開催期間が 10/11(土)～11/24(日)に変更になった。

（3）教育普及事業

新潟市の歴史文化への市民の関心や興味のニーズに対応するため、ボランティアなどの人的資源や博物館が有するモノや情報、ライブラリーなどを活用して、歴史に関するさまざまなサービスの提供や活動の提案を行った。

① 体験の広場事業

体験の広場の施設や資料を活用し、学芸員とボランティアスタッフ・外部協力者により、小学生や家族連れ・大人等を対象に各種の体験プログラムを 49 回実施。茶の間の押入スペースを使った展示を夏と秋の2回実施した。

② 博・学連携事業

小学校 41 校・中学校 19 校を受け入れ見学や職場体験に際し展示解説や指導を行った。そのほか、学校へ出向いて行う授業を小学校のべ 8 校、中学校 2 校で実施し、昔のくらしの道具貸出キットを小学校のべ 2 校に貸し出した。また来館校のうち職場体験は中学校 4 校、小学校 1 校であった。

新潟大学と連携して開講している寄附講義「ミュージアム論」に学芸員を講師に派遣したほか、新潟産業大学に「資料保存論」の講義で学芸員を派遣した。大学生を対象とする館実習は、通年および夏休み期間集中の２本を実施した。

そのほか、博物館の資料や資源を授業の教材に活用してもらうための施設見学として、教師向けに「みなとびあオープンデー」を実施し、授業への活用案を紹介した。

③ はじめてみなとびあ

みなとびあに来館し館に親しむ幼児向けプログラム。市内４保育園の年長児の保育プログラムに組み込んで実施したほか、未就学児（年長児）とその保護者を対象にも実施した。園向けには計１１回開催、親子向けには計３回開催した。

④ 講座事業

調査研究事業の成果を公開し、新潟の歴史や文化に関する「学び」や「楽しみ」を提案することを目的に、幅広いニーズに対応するための以下の各種講座を開催した。

博物館講座 全９回	5/25(日)、6/22(日)、 7/27(日)、8/24(日)、 9/28(日)、10/26(日)、 11/23(日)、12/21(日)、 1/25(日)	のべ 658人
歴史講座「浜・潟・山の歴史とくらし」 全３回	10/5(日)、10/19(日)、 11/2(日)	のべ 63人
館長講座 全４回	3/8(日)、3/15(日)、 3/22(日)、3/29(日)	のべ 321人

⑤ ボランティア事業

敷地ガイドや常設ガイド、体験の広場のプログラムの実施・補助として主に活動するボランティアの養成と活動支援を行った。一般ボランティア１３７名のほか、高校生ボランティアは２５名が登録しており、一般の活動回数は１５５回、高校生の活動回数は１２回となり、高校生ボランティアが企画・実施する「みなとびあた いけんのひろば なつまつり」を８月に開催した。

(４) 施設普及事業

博物館の活動を広く市民に知ってもらうため、リーフレットや「博物館ニュース」(３回)、年報などの出版物を作成し、新聞・雑誌等を通じて館の広報活動を行うとともに、以下の事業を実施し、博物館の利用推進を図った。

① 地域連携事業の実施

博物館近隣の市民団体と共催でイベントを開催した。

堀と桜のコンサート	4/6(日)	雨天中止
夕涼みコンサート	8/23(土)	500人
みなと・しもまち・川まつり	8/24(日)	550人

しもまち早川堀通り☆キャンドルナイト	11/3(月祝)	180 人
--------------------	----------	-------

② みなとぴあファンクラブ

博物館の情報を定期的に会員に向けて提供した。また、以下を実施した。

会員向け企画展鑑賞会	4/12(土)、7/11(金)、 12/5(金) ※9/13(土)は落雷の影響 で休館したため中止	各回 1～7 人
バスツアー「新潟県随一の高田城と城下町を訪ねて」	6/1(日)	23 人
まちあるき「地形図とともに歩く関屋の今昔」	10/13(月祝)	16 人
館長講演会「『にいがた 2 km』からたどる新潟 450 年 ー古新潟・古町から萬代橋・新潟駅への発展ー」	11/30(日)	19 人
学芸員による講座「戊辰戦争の新政府軍草莽隊（そうも うたい）について」	2/11(水・祝)	18 人

(5) 調査研究事業

主に企画展示や収蔵品展に関連した調査・研究を実施した。

そのほか、学芸員の専門分野における研究や館活動を通じた資料調査も随時行い、その成果は博物館講座を通じて市民に報告・還元するとともに、主なものを『研究紀要 22 号』にまとめた。

(6) 資料整理事業

寄贈の受け入れや購入した歴史・民俗・美術・図書等の資料を長期的に保存・活用することを目的に、以下の事業を行った。

① 保存環境管理

館蔵資料の長期保存のため、展示室やケースなどの展示施設をはじめ、収蔵施設である本館収蔵庫・旧木場小学校等について、各種の保存環境調査や清掃、防虫対策のためのくん蒸など、IPM に則った各種の保存環境管理を行った。

② 資料収集整理

地域の歴史を語る資料を収集するとともに、資料を管理し活用するために、資料の基礎的データや資料の詳細情報を調査・記録した。

(6) 水がつなぐ各地域の歴史・文化の魅力発信事業

広域合併 20 周年を機に、合併市町村の核となった旧川湊の在郷町を主な対象とし、地域の魅力を発信するための以下の事業を行った。

① 映像ソフト制作

合併市町村に通じる新潟市の歴史像を構築し広く伝えるため、川湊で発展した在郷町や潟に関する映像を本年度から 2 ヶ年継続で制作している。令和 9 年春、公開予定。

② まちあるきモニターツアー

地域で活躍するガイド団体と連携し、川湊として発展した各区の旧在郷町のうち 10 ヶ所を全 5 回で巡るまちあるきを実施した。参加者申込者のべ 87 人。

② 広域合併 20 周年特別講座

まちあるきに関する講演のほか、市内各地域でまちあるきを実施している 4 団体の代表者から、まちあるきを通じて見えてくる各地の魅力について報告してもらった。

「まちあるきから見える地域の魅力」	3/20(金祝)	83 人
-------------------	----------	------

2 文化施設管理受託事業

○歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等管理事業

市民に親しまれる博物館を目指して、利用者へのサービスの向上に努め、歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等の管理運営を行った。なお、9/10(水)に発生した落雷の影響により安全設備に不具合が生じたことから、博物館本館は 9/12(金)～10/10(金)まで休館、旧新潟税関庁舎は 9/12(金)～3/13(金)まで休館した。

(1) 歴史博物館管理事業

- ① 博物館本館（常設展示室、企画展示室、ミュージアムシアター、体験の広場、セミナー室、情報ライブラリー等）
- ② 旧第四銀行住吉町支店（応接室、会議室、日本間）
- ③ 屋外施設（広場、堀、園路等）

(2) 旧新潟税関庁舎等管理事業

- ① 旧新潟税関庁舎
- ② 史跡（石段、石積み、石庫等）

(3) 信濃川左岸緑地管理事業

3 自己評価

令和 7 年度は 9 月 10 日に発生した落雷事故により約 1 か月間の休館を余儀なくされ、目標の 93,000 人には来館者数は届かなかったものの、新たに寄贈を受けた戊辰戦争の資料群から新潟市域の戊辰戦争の調査研究を重ね、その成果が夏季企画展を通じ来館者に還元されるなど成果は得られた年であった。しかし、落雷事故による復旧のため予算の工面で所管課は苦慮したことは理解できるものの、再開の目安を案内できなかったことは問題であると認識しておく必要がある。

また、当該年度は通常の指定管理事業のほか、新潟市重点事業「水がつなぐ各地域の歴史・文化の魅力発信事業」では川湊から発展した在郷町や潟を参加者とともに巡り、その地域で育まれた歴史や文化の魅力を発信できたほか、地域のまちあるきガイドによる地域の魅力の報告会を開催、生涯学習の面からしても大きな役割を果たせたことは意義深い。

これらの事業を通じ、当館の上位計画である『新潟市文化創造都市ビジョン（令和6年3月策定）』が目指す望ましい将来像「市民一人ひとりの心の豊かさやいきいきとした暮らしが、将来にわたってまち全体を活性化している」状態への一助となったと考える。

※ 令和7年度歴史博物館入館者数 91,411 人